

1

a 原動力

b 美德

c 世代

d 破局

e 側面

f 路頭

2 A スマート B 八百 C エ D イ

3 エ 4 かわいいもの 5 エ

6 欲望追求 7 (記述題) 8 ア 9 イ

10 人類史上最もさもしい人々 11 (記述題)

2

1 エ 2 イ 3 ア 4 イ 5 エ 6 ア 7 ウ

6 A イ B オ C エ D ウ E ア 7 エ 8 (記述題) 9 ア

(6 完答)

1

商品やサービスを手に入れようとする他人の欲望を満たすことで、生活を成り立たせたり、給料を上げたりしたいという自分の欲望も満たされるということ。

(同意可)

11 ある時代について、  
大局的に細かい事実を考慮せず、  
細かい事実を考慮せず、  
特徴づけている  
ということ。

(同意可)

2

8 母と妹にきてほしいという本音を  
ぶつけたのに、ほしいという本音を  
いさつた逆の意見も簡単反対論  
とれて、逆の意見も簡単反対論  
と言わねたこと。

(同意可)

「配点」	1	1	2	2
その他	7	11	8	1
	各4点×14	各6点×3	各2点×13	各2点×13
	56点	18点	26点	26点

①

1 aは、物事の活動のもととなる力のことである。bは、ほめるべき立派な行いの意味でも使うが、ここでは理にかなった行いのことである。cは、親から子、子から孫へとひきつがれるそれぞれの代や、一定の年齢層に属する人々のことを意味する。dは、事態が行きづまって、関係やまとまりがこわれてしまうことである。eは、いろいろの性質・特色があるうちの一面ということである。fは、みちばたのことだが、「路頭に迷う」という形で使うと、生活の道をなくし、住む家もなく、ひどく困るという意味になる。

2 Aは、「スマート」つまり「洗練された」「かっこいい」という意味のことばのついたものを使っているのに、その姿はスマートとはほど遠いと言っているのである。Bの「嘘八百」は、多くの嘘、またはまったくの嘘でたためであること。「八百」は数が多いことを意味する。Cの「言い得て妙」は、たくみに言い表しているさまを言う。「妙」は「巧妙」「絶妙」などのように、すばらしいという意味で使うこともある。Dの「希」には「まれ」という意味がある。

3 E以外は、どちらかといえば今以上の便利さを求めない気持ちであるが、Eは積極的に便利であることを求めているわけではないものの、結局は便利さを手に入れようとしている。

4 人が持っている「かっこいい機器」を自分も手に入れたいというレベルの庶民の「欲望」は、筆者の言う「さもしい」状態の中ではそれほどたいしたものではないという意味で「かわいいもの」だと言っている。

5 「不適当なもの」を選ぶ問題である。直後では、進化についていけないことから生じる不都合について書かれているし、「一度も使わない機能」や「処理速度」に関しては「今の状態でいいではないか…」の段落で書かれているが、「使いこなす能力がない」ということは本文中には書かれていない。

6 まず、——線部の「陳腐化」がどういうことを意味するかを考えなければならない。便利なものを求めて獲得するのだが、手にはいると、それがあたりまえのことになって、「もつと便利に」「もつと快適に」と思うのである。つまり、第二段落の最後に書かれている「欲望追求にどうも終わりはない」ということになる。( )の前の「無限に」は「終わりはない」を言いかえたものである。さがす場所の指定に注意すること。

7 ——線部は、同じ段落のそれまでの内容をまとめたものであることを見ぬく。「他人の欲望を満たせば、自分の欲望も満たされる」という骨組みができたら、あとは、それぞれの「欲望」を具体的に書けばよい。

8 これも「不適当なもの」である。Aの「資本主義社会のメカニズム」ということばはたしかに本文中に書かれているが、「さもしい」の説明として出てきたものではない。「さもしい」ように見えるが、その「メカニズム」をくずすと社会が成り立たなくなると言っているのである。また、人々が「メカニズムを維持するために」という意識を持って行動しているわけでもないだろう。

9 「新しいモノ」を買い、すぐに「陳腐化」させて、さらに「新しいモノ」を買うのが「資本主義社会のメカニズム」だと言っている。「陳腐化」つまり「破壊」によって、「新しいモノ」が求められ、つくられるのが「創造」ということになる。

10 本文最後から三つめの段落に、「五百年後の歴史教科書に『人類史上最もさもしい人々』という記述があったとしても」と明記されている。

11 直後の「人類史上最も幸福な時代」という「特徴づけ」が「アバウト」であることの例である。「アバウト」の意味を知らなくても「そういう事実を考慮せずに、あえて大局的に特徴づける」とまとめられていることに注目できるだろう。

②

1 1は、「意味がわからず」とあるので、すなおに尋ねたと考えられる。2は、あとで「どういうこと？」と聞き返しているところから見て、そういう返事が来ると言っていたことばではないだろう。3は「熱く力を込めて」から明らかである。

2 この時点では「ぼく」にも意味がわからなかったとあり、はっきり説明されているわけではない。しかし、本文最後の部分でわかるように、母の本心は「ぼく」を東京に連れもどしたいのだから、そこからこのときの母の気持ちが想像できるのではないか。

3 「ぼく」としては母と妹に来てほしかったのである。母がこの土地で暮らすつもりがあるなら、「これからもよろしく」ということばが出てきてもおかしくないだろう。母はあえて、そう言わなかったのである。

4 作者のねらいを問うている。ストーリーの展開そのものには直接関係ないようだが、こういう表現によって、都会風でおしゃれな母のイメージが印象づけられる。母には、地方の漁師町で暮らすつもりはまったくないのである。

5 「ぼく」の心の底にあるのは母に来てほしいという気持ちである。だからこそ、「ぼく」がこの土地になじみつつあり、どんなふうにも暮らしているかを知ってもらいたかったのである。もちろん「住みやすい」となると言い過ぎになるので、イは不適当だろう。

6 「妹」の話につながるのには「女の子」ということばがあるイだろう。さらにイ↓オの流れは明らかである。エが才を受けたことばであることに気づけば、そのあとウにもつながっていく。アは最後に来ても不自然ではないだろう。

7 「いよいよ」ということばに注目したい。母に自分たちの暮らしぶりを見せようとしているのである。

8 「だったら…」ということばを言ったことであるが、「今日一番の本音をぶつけた」ということばも利用するとよいだろう。

9 「渾身の一球」が打ち返されたのである。母と妹に来てもらい、いっしょに暮らしたい「ぼく」に対して、母はあくまでも「ぼく」を東京に連れもどしたいのだから、おたがいの気持ちは平行線をたどるしかない。